

2023年3月期 第1四半期 ダイジェスト資料 (1)

【1Q実績及び通期計画】

(連結)

(単位:百万円、%)

	2022年3月期 1Q実績	2023年3月期						
		1Q実績	前年差	増減率(%)	通期見込み	期初計画	計画差	
連結	売上高	278,829	311,512	32,683	11.7	1,240,000	1,240,000	0
	加工事業本部	118,265	99,012	△ 19,253	△ 16.3	-	-	-
	食肉事業本部	162,599	178,995	16,396	10.1	-	-	-
	海外事業本部	60,442	84,423	23,981	39.7	-	-	-
	球団・その他	4,408	4,970	562	12.7	-	-	-
	消去調整他	△ 50,767	△ 55,888	△ 5,121	-	-	-	-
	非継続事業	△ 16,118	-	16,118	-	-	-	-
	事業利益	12,425	9,170	△ 3,255	△ 26.2	43,000	46,000	△ 3,000
	加工事業本部	3,323	1,220	△ 2,103	△ 63.3	7,000	10,000	△ 3,000
	内) 非継続事業	△ 300	-	300	-	-	-	-
	食肉事業本部	9,524	7,060	△ 2,464	△ 25.9	36,000	36,000	0
	海外事業本部	△ 229	343	572	-	3,000	3,000	0
	球団・その他	377	819	442	117.2	0	0	0
	消去調整他	△ 570	△ 272	298	-	△ 3,000	△ 3,000	0
	税引前利益	15,465	14,394	△ 1,071	△ 6.9	42,000	44,500	△ 2,500
	法人所得税費用	4,700	3,659	△ 1,041	△ 22.1	11,000	11,500	△ 500
	親会社の所有者に帰属する当期利益	9,906	10,182	276	2.8	31,000	33,000	△ 2,000

【海外事業本部の内訳】

(単位:百万円、%)

	2022年3月期		2023年3月期					
	1Q実績	売上高比(%)	1Q実績	売上高比(%)	前年差	増減率(%)	通期見込み	
海外事業本部計	売上高	60,442	-	84,423	-	23,981	39.7	-
	外部顧客に対する売上高	30,867	51.1	48,540	57.5	17,673	57.3	-
	セグメント間の内部売上高	29,575	48.9	35,883	42.5	6,308	21.3	-
	事業利益	△ 229	△ 0.4	343	0.4	572	-	3,000
豪州	売上高	21,701	-	36,366	-	14,665	67.6	-
	外部顧客に対する売上高	18,393	84.8	31,758	87.3	13,365	72.7	-
	セグメント間の内部売上高	3,308	15.2	4,608	12.7	1,300	39.3	-
	事業利益	△ 227	△ 1.0	309	0.8	536	-	2,510
米州	売上高	23,664	-	30,004	-	6,340	26.8	-
	外部顧客に対する売上高	5,979	25.3	8,096	27.0	2,117	35.4	-
	セグメント間の内部売上高	17,685	74.7	21,908	73.0	4,223	23.9	-
	事業利益	90	0.4	113	0.4	23	25.6	1,840
アジア・欧州	売上高	15,467	-	18,970	-	3,503	22.6	-
	外部顧客に対する売上高	6,495	42.0	8,686	45.8	2,191	33.7	-
	セグメント間の内部売上高	8,972	58.0	10,284	54.2	1,312	14.6	-
	事業利益	148	1.0	180	0.9	32	21.6	△ 190

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

【設備投資額、減価償却費】

(連結)

(単位:百万円、%)

区 分	2022年3月期 1Q実績	2023年3月期			
		1Q実績	前年差	増減率(%)	通期計画
設備投資額合計	8,276	17,769	9,493	114.7	94,200
加工事業本部	3,102	1,529	△ 1,573	△ 50.7	16,000
食肉事業本部	1,420	3,513	2,093	147.4	31,300
海外事業本部	1,039	918	△ 121	△ 11.6	10,300
その他設備	2,715	11,809	9,094	335	36,600
減価償却費	8,925	9,353	428	4.8	37,700

【中期経営計画2023の進捗】

(単位:百万円)

区 分	中期経営 計画2023計画
設備投資額合計	248,000
加工事業本部	45,700
食肉事業本部	78,100
海外事業本部	18,800
その他設備	105,400
減価償却費	112,600

【売上実績】

(単位:百万円、%)

品 種	2022年3月期 1Q実績	2023年3月期				
		1Q実績	前年差	増減率(%)	数量 伸長率(%)	通期見込み
ハム・ソーセージ	30,791	29,924	△ 867	△ 2.8	△ 5.2	132,000
加工食品	55,077	55,052	△ 25	△ 0.0	△ 7.6	227,000
食 肉	169,224	198,276	29,052	17.2	3.5	774,000
牛 肉	65,424	84,094	18,670	28.5	14.8	327,000
豚 肉	54,992	60,074	5,082	9.2	3.8	242,000
鶏 肉	43,876	49,192	5,316	12.1	△ 2.9	186,000
その他食肉	4,932	4,916	△ 16	△ 0.3	17.9	19,000
乳製品	8,631	8,932	301	3.5	△ 5.0	36,000
その他	15,106	19,328	4,222	27.9	-	71,000
合 計	278,829	311,512	32,683	11.7	-	1,240,000

2023年3月期 第1四半期 ダイジェスト資料 (2)

【セグメント別事業利益見込みと事業利益増減計画差要因】

[連結計]

(単位:億円)

		1Q 実績	2Q 見込み	上期 見込み	下期計画	通期 見込み	期初計画	差異
売上高	加工事業本部	990	-	-	-	-	-	-
	食肉事業本部	1,790	-	-	-	-	-	-
	海外事業本部	844	-	-	-	-	-	-
	球団・その他	50	-	-	-	-	-	-
	消去調整他	△ 559	-	-	-	-	-	-
	計	3,115	-	6,100	6,100	12,400	12,400	0

(単位:億円)

事業利益		1Q 実績	2Q 見込み	上期 見込み	下期計画	通期 見込み	期初計画	差異
加工事業本部		12	0	12	58	70	100	△ 30
内)乳・水産品とエキス・一次加工事業品		2	2	4	17	21	22	△ 1
食肉事業本部		71	109	180	180	360	360	0
海外事業本部		3	6	9	21	30	30	0
球団・その他		8	15	23	△ 23	0	0	0
消去調整他		△ 3	△ 12	△ 14	△ 16	△ 30	△ 30	0
合計		92	118	210	220	430	460	△ 30

[加工事業本部]

(単位:億円)

事業利益		1Q 実績	2Q 見込み	上期 見込み	下期計画	通期 見込み	期初計画	差異
既存事業		△ 14	△ 24	△ 38	△ 7	△ 45	△ 15	△ 30
増減要因 内訳	(外部要因①:主原料等)	△ 10	△ 16	△ 26	△ 45	△ 70	△ 58	△ 12
	(外部要因②:副資材・燃料等)	△ 15	△ 22	△ 37	△ 41	△ 78	△ 72	△ 5
	(内部要因①:価格改定効果)	7	9	16	66	82	60	22
	(内部要因②:改善活動)	3	6	9	13	21	56	△ 34
	水産・乳製品、エキス・一次加工品	0	1	1	5	6	11	△ 5
	DX費用	△ 4	△ 6	△ 10	△ 6	△ 16	△ 20	5
	合計	△ 18	△ 29	△ 47	△ 8	△ 54	△ 24	△ 30

事業利益昨年差要因(1Q)	
牛肉・豚肉・鶏肉すべての畜種が高騰した。	
副資材:羊腸、油、包材関係等が高騰した。燃料等:エネルギーコスト全般が高騰した。	
販売単価は上昇したが、販売数量が減少。稼働率の低下で製造工場の固定費比率も悪化し、外部要因を補えなかった。	
主力ブランドの販売減少により、商品ミックスが悪化した。	
外食の回復で、エキス・一次加工は収益を確保したが、乳製品は、チーズが価格高騰により得意先での使用量が減少した。また、ヨーグルトは価格改定によりバニラヨーグルトの販売数量が減少したことで収益が圧迫された。	

[食肉事業本部]

(単位:億円)

事業利益		1Q 実績	2Q 見込み	上期 見込み	下期計画	通期 見込み	期初計画	差異
国産牛・豚事業		1	3	4	3	8	1	7
増減要因 内訳	国産鶏事業	△ 17	△ 8	△ 26	△ 6	△ 31	△ 15	△ 16
	輸入食肉事業	△ 3	9	6	3	9	6	3
	フード販売	7	16	24	7	31	29	2
	DX費用	△ 4	△ 5	△ 10	△ 6	△ 15	△ 17	1
	その他	△ 8	12	3	0	3	0	3
	合計	△ 25	27	2	2	4	4	0

事業利益昨年差要因(1Q)	
生産部門は、飼料・燃料高騰の影響を受けたが、牛肉(荷受け)が輸入品が高騰したことで国産需要が堅調に推移し増益となった。	
生産部門が軟調な相場や飼料・燃料価格高騰の影響を受け減益となった。	
調達価格の高騰や入船遅延等で輸入量が減少したり、国産シフト(主に豚肉)が進み需要が減退したことで減益となった。	
回復基調にある外食向けの販売強化で、畜種ミックスが改善した。また、ブランド食肉の販売も伸長し増益となった。	
主に輸入牛肉における棚卸資産の評価損が発生した。	

[海外事業本部]

(単位:億円)

事業利益		1Q 実績	2Q 見込み	上期 見込み	下期計画	通期 見込み	期初計画	差異
オーストラリア		2	0	2	△ 3	△ 1	△ 5	4
増減要因 内訳	ウルグアイ	3	△ 2	2	△ 1	0	5	△ 5
	米州	0	△ 2	△ 2	8	7	7	△ 1
	アジア・欧州	0	1	2	1	2	1	1
	その他	△ 0	△ 1	△ 1	△ 1	△ 2	△ 3	0
	合計	6	△ 3	3	3	6	6	0

事業利益昨年差要因(1Q)	
処理頭数の増加による利益額の確保と堅調な販売価格やブランド比率の向上により増益となった。	
生体価格は想定以上に高騰したが、堅調な需要により販売価格が高騰し、増益となった。	
鶏肉原料価格や物流費・エネルギーコストの上昇で収益が圧迫された。	
トルコの鶏肉販売は価格転嫁が進み堅調に推移したが、タイからの日本向け輸出の減少と原料価格の上昇が影響し収益が圧迫された。	

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。